

西和賀町 橋梁長寿命化修繕計画



令和 7年 4月
(令和 7年 12月改定)

西和賀町 建設水道課

1. はじめに

西和賀町は、岩手県の南西部にあって秋田県に接し、和賀岳や南本内岳、奥羽山脈に囲まれた盆地です。気候は、日本海型気候に属し、年平均気温は9.1℃と冷涼で、年間降水量は約2,100mm、積雪は平年2mに達し、特別豪雪地帯に指定されています。

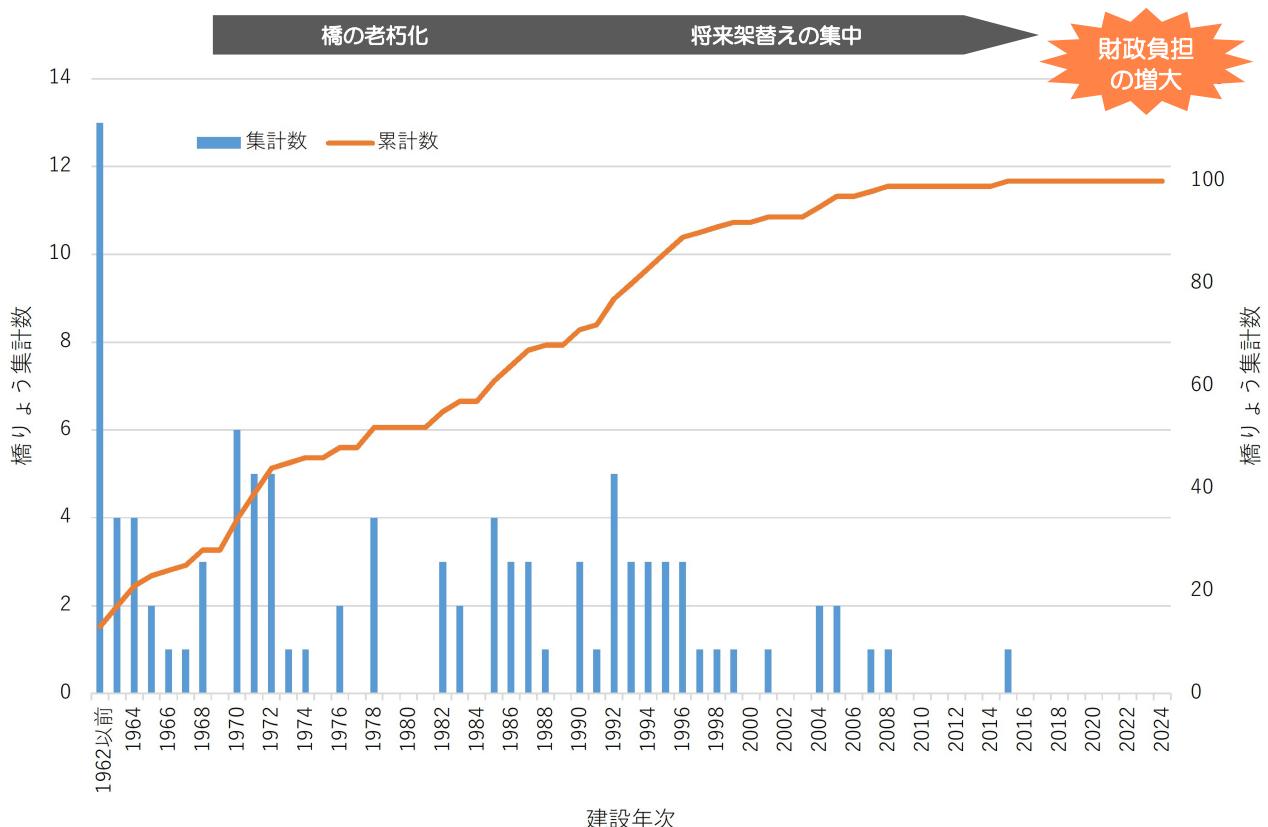
西和賀町は人口が5,000人ほどの町です。西和賀町が管理する橋梁は全部で143橋（横断歩道橋1橋含む）であり、現在は1橋あたり35人程度で支えている計算となります。しかし、人口減少率が年々増加しており、少子高齢化による社会保障費の増大も鑑みると、今後1橋当たりを支える予算の減少も想定されるため、維持管理における更なるコスト縮減が求められます。

このような状況を踏まえ、西和賀町では、橋梁の「安全」「安心」を持続的に確保していくため、計画的な管理を行うことによって維持管理費の縮減や平準化を目指し、平成23年度に「西和賀町橋梁長寿命化修繕計画」（以下「第1期計画」という）を策定しました。その後、笹子トンネル天井板崩落事故をきっかけとした平成25年度の道路法一部改正、平成26年度に「道路橋定期点検要領」（H26.6国土交通省道路局）が示され、橋長2m以上の管理橋梁の点検が義務化されました。これを受け、西和賀町では令和元年度から令和5年度にかけて2巡目の定期点検を行い、令和7年度から3巡目の定期点検を行います。

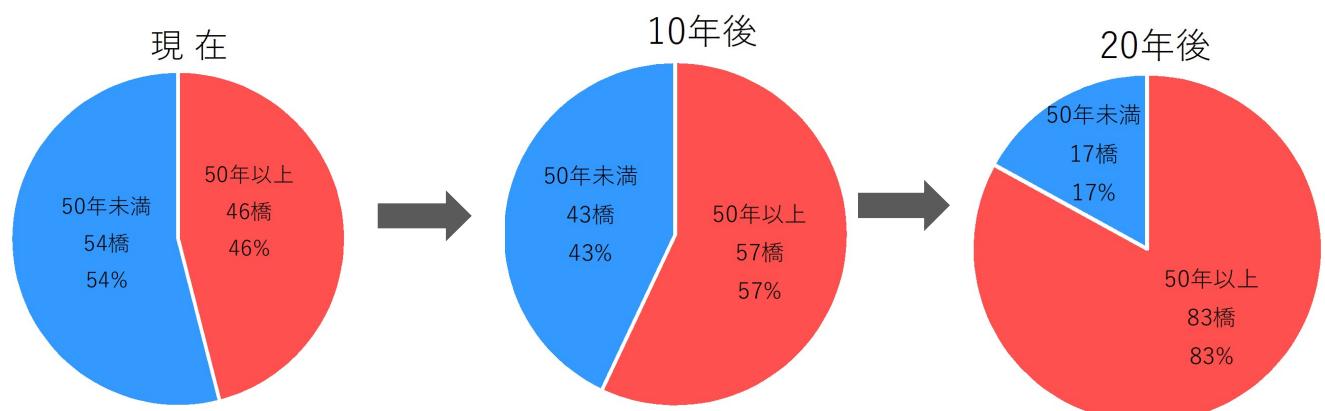
このように維持管理を取り巻く環境は刻々と変化しており、その変化に柔軟に対応するため本計画を見直すことにしました。本計画は、平成30年度に策定された「第2次西和賀町総合計画」の個別計画として位置付け、町道の「安全」「安心」を確保していくことを目指します。

2. 橋梁長寿命化修繕計画の目的

西和賀町は現在143橋の橋梁を管理しています。これらの橋は今後、老朽化し、架替えによる財政負担が大きくなることが懸念されています。計画的かつ予防的な修繕を行うことで橋の長寿命化を図り、老朽化する橋の維持管理コストの縮減と予算の平準化を行うことを目的とします。



[西和賀町の橋の建設数]



[建設後50年以上の橋の推移]

※ 建設年次が不明な橋梁は除く

3. 橋梁長寿命化修繕計画の対象橋梁

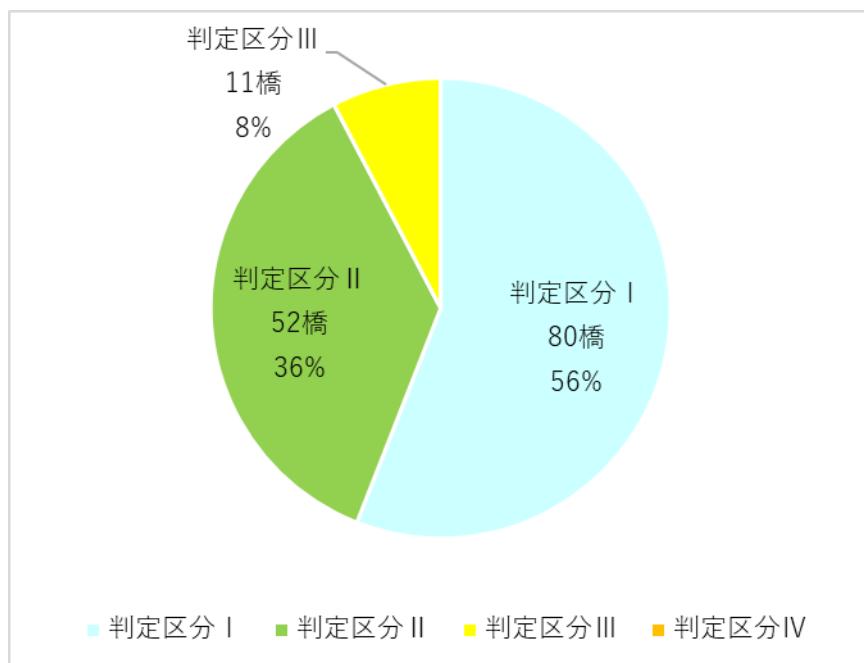
橋梁長寿命化修繕計画の対象とする橋は管理橋梁全ての143橋（横断歩道橋1橋含む）としています。

	管理橋梁数	点検橋梁数	計画対象橋梁数
平成31年度の計画対象橋梁数	149	149	149
令和6年度の計画対象橋梁数	149	143	143

町道の橋梁149橋のうち、6橋は岩手県南部森林管理署が管理する橋梁です。

■判定区分の割合

西和賀町では、管理橋梁全橋に対して橋梁点検を実施しています。点検結果の内訳は次の通りです

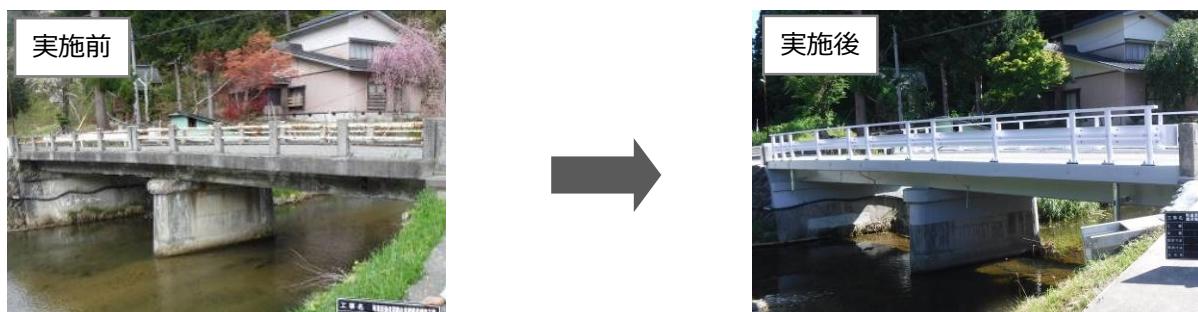


[「道路橋定期点検要領」で定められた健全性の診断（判定区分）]

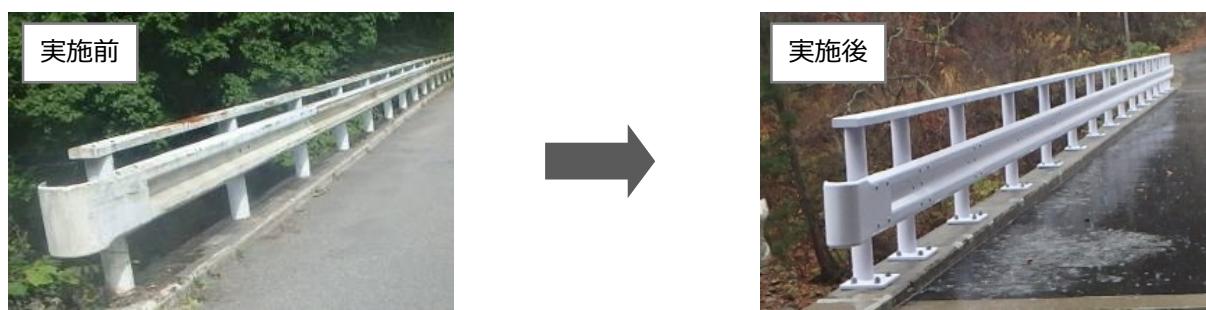
区 分		状 態
I	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態。
II	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講すべき状態。
IV	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講すべき状態。

【これまで実施した橋梁補修工事の例】

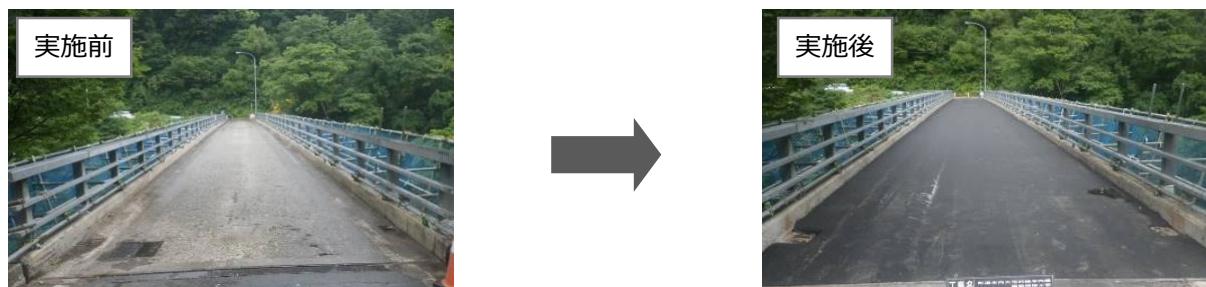
■床版の補修



■防護柵の補修



■路面の補修



【補修した部材についての補足説明】

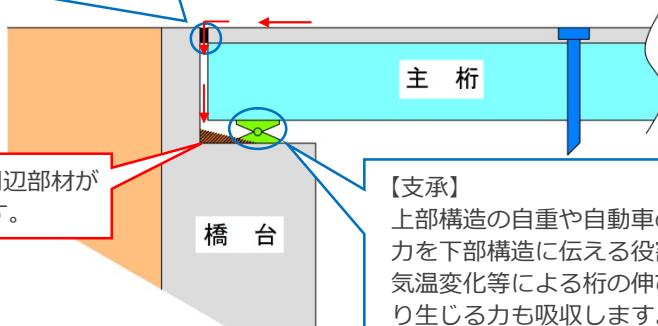
【伸縮装置】

桁と橋台に隙間が生じないように、つなぐ役割を持ち、気温変化等による桁の伸び縮みに対応します。また、この伸縮装置から桁下に土砂や水が流下するのを防ぐことも、大切です。

土砂や水が溜まると、周辺部材が劣化する原因となります。

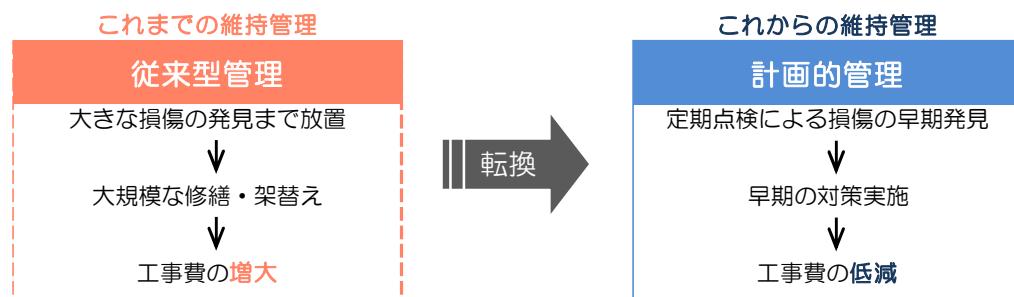
【支承】

上部構造の自重や自動車の通行等により生じる力を下部構造に伝える役割を持ちます。気温変化等による桁の伸び縮みや地震、風により生じる力も吸収します。

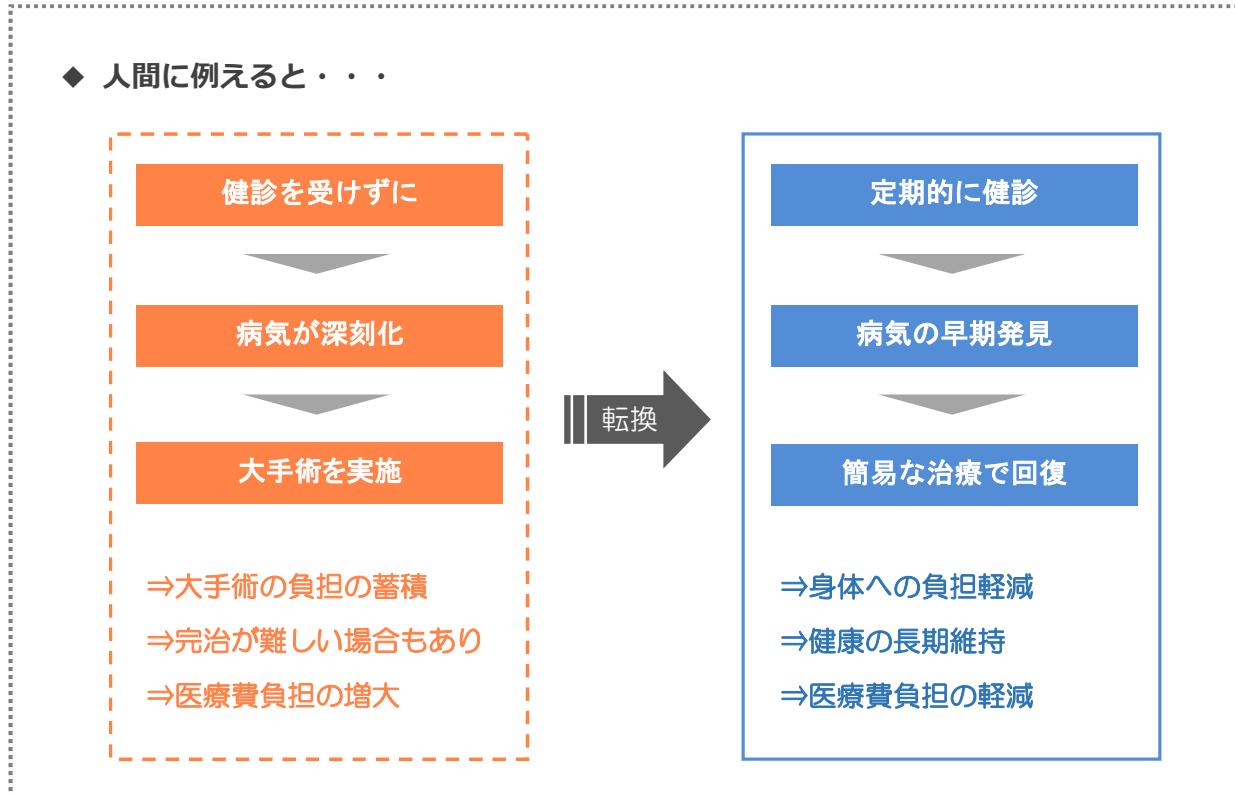


4. 橋梁長寿命化修繕計画の考え方

- 西和賀町では、令和元年度から令和5年度に橋の点検を行い、今後も5年間隔で点検を行うことで安全確保に努めています。
- 点検結果より、橋の健全性の評価を行い、交差条件や路線の状況等に応じて橋の重要性を定め、計画的な修繕が行えるよう優先順位を決めます。
- 橋の損傷が深刻化してから大規模な修繕や架替え更新を行う対症療法的な**従来型管理**から、損傷が深刻化する前に計画的な修繕を行う**計画的管理**へ転換し、橋の長寿命化を図るとともに、修繕に係わる費用の縮減を図ります。
- 100年間の橋の維持管理にかかる費用であるライフサイクルコスト（LCC）の試算を行い、計画的な維持管理へ転換した場合の効果を確認します。



◆ 人間に例えると・・・



【優先順位の考え方】

優先順位は、橋梁の健全性のほかに、路線の位置付けや防災上の観点、橋梁の諸元等に関係する諸条件から橋梁の重要性を考慮し、総合的に設定します。

路線特性	橋梁特性	桁構造			ボックスカルバート構造
		$L \geq 15m$	$15m > L \geq 5m$	$L < 5m$	
		高	低	低	
跨線橋・跨道橋	高	管理区分 1	-	-	-
	中	管理区分 2	管理区分 2	管理区分 3	管理区分 3
	低	管理区分 2	管理区分 2	管理区分 3	管理区分 3
	最低	管理区分 3	管理区分 3	管理区分 3	-

管理区分	分類指標	健全性の把握	対策方法	重要度
管理区分 1	跨線橋および跨道橋	定期点検	損傷が軽微な段階での予防保全的な補修等	重要度 1
管理区分 2	バス路線・除雪路線で橋長 15m 以上の桁構造の車道橋	定期点検	損傷が顕在化した段階での補修等	重要度 2
	バス路線・除雪路線で橋長 5m 以上 15m 未満の桁構造の車道橋			重要度 3
	上記に該当しない路線で橋長 15m 以上の桁構造の車道橋			重要度 4
	上記に該当しない路線で橋長 5m 以上 15m 未満の桁構造の車道橋			重要度 5
管理区分 3	バス路線・除雪路線で橋長 5m 未満の桁構造またはボックスカルバート構造の車道橋	定期点検	損傷が顕著な段階での大規模修繕や架替え、カルバート構造への変更等	重要度 6
	上記に該当しない路線で橋長 5m 未満の桁構造またはボックスカルバート構造の車道橋			重要度 7
	跨線橋、跨道橋に該当しない人道橋			重要度 8

※重要度が同じ場合は橋長の長い橋梁を優先する。

5. 短期の事業計画

2025年度から5年間の事業計画を以下に示します。

No	橋梁名	構造形式	橋長(m)	架設年次	供用年数 (2024年 を基準)	点検 年度	判定 区分	対策の内容・時期					補修対策内容	対策 費用 (百万元)	
								2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)			
1	貝沢橋	RCT桁橋	13.9	1964	60	R3	II		△				◇		
2	大木原橋	PC中空床版橋	15.6	1985	39	R4	I			△			◇		
3	国威橋	床版橋・中実	3.5	1970	54	R3	I		△				◇		
4	開拓1号橋	PC中空床版橋	17.6	1996	28	R4	I			△			◇		
5	開拓2号橋	PC桁橋	22.0	1990	34	R5	II				△		◇		
6	開拓3号橋	ボストンション桁橋	44.5	1988	36	R4	I			△			◇		
7	開拓4号橋	カルバート	2.6	不明	-	R3	II		△				◇		
8	開拓5号橋	PC箱桁	33.3	1987	37	R5	II				△		◇		
9	大八郎橋	RC床版橋	6.6	1976	48	R4	I			△			◇		
10	貝沢1号橋	PC床版橋	16.6	1996	28	R5	I				△		◇		
11	水無沢橋	PC-1桁橋	9.5	1972	52	R4	II			△			◇○	橋面防水工 断面修復工他	10
12	叭沢橋	PC床版橋	17.6	1992	32	R5	I				△		◇		
13	若畠橋	2径間単純鋼桁橋	40.9	1971	53	R5	II				△○		◇●	塗替塗装工 伸縮装置取替工他	70
14	一の沢橋	単純PCフレテン桁橋	9.1	1971	53	R2	I	△					◇		
15	新山橋	3径間連結フレテンPC T桁橋	75.0	1999	25	R2	II	△		○	●		◇	支承補修工	27
16	大水上沢橋	RC床版橋	7.4	1978	46	R5	I				△		◇		
17	ツツミノ沢橋	組立橋	3.7	不明	-	R3	III	●	△				◇	橋台背面補修工	5
18	赤沢橋	床版橋・中実	2.0	1972	52	R3	I		△				◇		
19	赤沢上橋	単純H形鋼桁橋	16.6	1971	53	H29	II	岩手南部森林管理署管理							
20	和賀岳1号橋	鏡桁橋	60.0	1991	33	H30	I				△		◇		
21	和賀岳橋	鏡桁橋	99.0	1993	31	H30	I				△		◇		
22	桐沢橋	単純鋼板桁橋	35.0	2008	16	R2	I	△					◇		
23	桐沢1号橋	単純2径間RC床版橋	10.0	1968	56	R2	I	△					◇		
24	魔土沢橋	カルバート	2.6	不明	-	R3	I		△				◇		
25	泉沢1号橋	カルバート	4.6	1971	53	R3	II		△				◇		
26	八年橋	鋼溶接橋 I桁(合成)	207.8	1972	52	R3	II		△	○	●		◇	橋面防水工 断面修復工他	156
27	貝沢々野橋	床版橋・中実	3.0	不明	-	R3	II		△				◇		
28	柳沢橋	床版橋・中実	3.0	1976	48	R3	II		△				◇		
29	和佐内橋	単純2径間RCT桁橋	18.2	1963	61	R2	II	△	○	●			◇	橋面防水工 断面修復工他	39
30	七内川2号橋	PC中空床版橋	14.8	1993	31	R4	I			△			◇		
31	口広橋	鋼I桁橋+鋼覆工板床版	8.4	1968	56	R4	II			△			◇○	塗替塗装工他	10
32	口広小橋	簡易組立床版橋	5.5	1982	42	R4	I			△			◇		
33	猿橋3号橋	BOXカルバート	2.7	1960	64	R5	I				△		◇		
34	巣島橋	単純RCT桁橋	18.1	1970	54	R2	II	△					◇		
35	弁天橋	単純鋼H桁橋	22.0	1970	54	R2	II	△					◇		
36	猿橋5号橋	カルバート	5.0	不明	-	R3	I		△				◇		
37	鍵沢橋	B径間連結ボステンPCT桁橋	244.0	2004	20	R2	II	△		○	●		◇	支承補修工	36
38	太田1号橋	組立橋	3.5	不明	-	R3	I		△				◇		
39	遠巣谷川橋	RC床版橋	9.5	1986	38	R5	I				△		◇		
40	岬瀬橋	単純2径間RC床版橋	12.0	不明	-	R2	I	△					◇		
41	下巾橋	単純鋼H桁橋	12.2	1985	39	R2	I	△					◇		
42	下巾1号橋	RC-T桁橋+RC床版橋 拡幅	9.7	1985	39	R4	II			△			◇		
43	松長根1号橋	組立橋	3.6	不明	-	R3	I		△				◇		
44	根婆橋	RC床版橋	5.5	1971	53	R5	II				△		◇		
45	青毛橋	フレテンションI桁床版橋	8.4	1967	57	H29	I	岩手南部森林管理署管理							
46	小松倉橋	フレテンションI桁床版橋	11.2	1968	56	H29	I	岩手南部森林管理署管理							
47	本内橋	PC桁橋	23.8	1990	34	R5	I				△		◇		
48	片倉橋	鋼桁橋	26.0	2004	20	R5	I				△		◇		
49	桙沢小橋	床版橋・中実	4.5	不明	-	R3	I		△				◇		
50	岩窓沢橋	BOXカルバート	7.8	1990	34	R5	I				△		◇		

[凡例]

△ : 点検

○ : 補修設計

◇ : 計画見直し

● : 補修工事

No	橋梁名	構造形式	橋長(m)	架設年次	耐用年数(2024年を基準)	点検年度	判定区分	対策の内容・時期					補修対策内容	対策費用(百万円)
								2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)		
51	飯豊橋	単純鋼 I 枠橋	86.0	1967	57	R2	II	△				◇		
52	大瀬橋	RC-T桁橋+RC床版橋 拝幅	5.5	1964	60	R4	II			△		◇		
53	志賀東大橋	4径間連続鋼 I 枠橋	165.0	2005	19	R2	II	△				◇		
54	内の沢橋	3径間単純鋼 I 枠橋	75.0	1974	50	R5	I				△	◇		
55	仁八橋	PC床版橋	12.2	1966	58	R5	I				△	◇		
56	塚根橋	単純RC床版橋	6.5	1971	53	R2	II	△				◇○	橋面防水工 防護柵取替工他	10
57	志賀東1号橋	単純RC床版橋	5.2	1986	38	R2	II	△				◇		
58	志賀東2号橋	床版橋・中実	3.4	1986	38	R3	I		△			◇		
59	志賀東3号橋	フレテンション I 枠床版橋	10.5	不明	-	R4	II		△			◇		
60	小瀬沢橋	床版橋・中実	4.0	不明	-	R3	II		△			◇		
61	下野橋	BOXカルバート	3.9	不明	-	R2	I	△				◇		
62	小田沢1号橋	床版橋・中実	3.1	不明	-	R3	II		△			◇		
63	分訣橋	3径間連続鋼 I 枠橋	111.0	1993	31	R2	I	△				◇		
64	相沢橋	PC床版橋	17.0	1994	30	R5	I				△	◇		
65	うすもと橋	PC桁橋	22.3	1994	30	R5	I				△	◇		
66	3号橋	カルバート	2.3	1970	54	R3	I		△			◇		
67	左草橋	PC中空床版橋	24.5	1995	29	R4	I			△		◇		
68	5号橋	場所打ちBOXカルバート	5.7	不明	-	R4	I			△		◇		
69	小瀬沢橋	場所打ちPC中空床版橋	26.0	2007	17	R4	I			△		◇		
70	佐助橋	鋼桁橋	31.3	1992	32	R5	I				△	◇		
71	清水川橋	単純非合成鋼板組合構造(耐候性鋼)	25.6	1992	32	R4	II			△		◇		
72	桧の沢橋	カルバート	4.1	不明	-	R3	I		△			◇		
73	柳沢橋	2径間単純鋼筋コンクリート橋(耐候性鋼) CT-BBタイプ	59.0	1978	46	R5	I				△	◇		
74	寅次橋	単純PCボスティン桁橋	20.6	1972	52	R2	I	△				◇		
75	豊沢橋	単純2径間RCT桁橋	20.1	1968	56	R5	III				△	◇	廃止を検討	
76	住吉橋	フレテンション中空床版橋	18.1	1973	51	R4	II			△		◇		
77	15号橋	2径間鋼RC-T桁橋(1孔1車線)定密接道	15.1	1972	52	R4	III		●	△		◇	橋面防水工 断面修復工他	19
78	穴明橋	単純鋼 I 枠橋	44.6	1992	32	R2	I	△				◇		
79	桜沢大橋	単純2径間PCボスティンT桁橋	85.0	1982	42	R2	I	△				◇		
80	山室橋	RCアーチ橋	53.3	1925	99	R2	II	○△	●	●		◇	断面修復工他	150
81	瀧田沢橋	床版橋・中実	2.6	不明	-	R3	I		△			◇		
82	下前橋	鋼桁橋	44.5	1983	41	R5	II		○	●	△	◇	塗替塗装工 橋面防水工他	233
83	大水上3号橋	PC中空床版橋	15.0	1970	54	R4	II			△		◇		
84	大水上1号橋	スラブ橋桁・中空	15.0	1959	65	R3	III	●	△			◇	橋面防水工 断面修復工他	9
85	大水上2号橋	床版橋・中実	4.0	1970	54	R3	II		△			◇		
86	大沢橋	床版橋・中実	3.5	不明	-	R3	I		△			◇		
87	田の沢橋	床版橋・中実	3.6	不明	-	R3	I		△			◇		
88	大水上橋	スラブ橋桁・I 枠	12.5	1964	60	R3	I		△			◇		
89	長松橋	スラブ橋桁・I 枠	10.4	1964	60	R3	II		△			◇○	断面修復工 伸縮装置取替工他	10
90	多々良橋	単純H形鋼桁橋	20.4	1965	59	R4	II			△	○	◇●	塗替塗装工 伸縮装置取替工他	62
91	小糸井橋	単純H形鋼桁橋	16.5	1965	59	R4	II			△	○	◇●	塗替塗装工 伸縮装置取替工他	43
92	にかい橋	単純PCフレテン桁橋	12.6	1965	59	R2	I	岩手南部森林管理署管理						
93	湯之沢橋	RCアーチ橋	65.4	1933	91	R5	III				△	◇	廃止を検討	
94	18号橋	フレキャストボックスカルバート	3.6	不明	-	R4	II			△		◇		
95	落合橋	単純鋼 I 枠橋	33.0	1998	26	R2	I	△				◇		
96	間木野橋	鋼溶接橋 I 枠	20.6	1962	62	R3	III		△			◇	R6補修済	
97	小沢橋	鋼桁橋	22.4	1965	59	H30	II	岩手南部森林管理署管理						
98	無地内沢橋	H形鋼桁橋	22.6	1977	47	H29	II	岩手南部森林管理署管理						
99	32号橋	床版橋・中実	3.4	不明	-	R3	II		△			◇		
100	35号橋	床版橋・中実	4.4	不明	-	R3	II		△			◇		

【凡例】

△ : 点検

○ : 補修設計

◇ : 計画見直し

● : 補修工事

■ : 撤去工事

No	橋梁名	構造形式	橋長(m)	架設年次	耐用年数 (2024年 を基準)	点検 年度	判定 区分	対策の内容・時期					補修対策内容	対策 費用 (百万円)
								2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)		
101	鎌淵橋	鋼溶接橋 I桁	40.7	1960	64	R3	II		△			◇		
102	澤入橋	単純RC-T桁橋	13.3	1963	61	R2	I	△				◇		
103	松倉橋	2径間単純鋼板橋	71.4	1962	62	R4	II			△	○	◇●	塗替塗装工 橋面防水工他	148
104	あやめ橋	3径間複合PCラーメン+4径間複合PC床版橋	193.0	1992	32	R4	II			△		◇		
105	沢入橋	単純PCフレテンI桁橋	6.6	不明	-	R2	I	△				◇		
106	42号橋	PC-T桁橋	6.5	不明	-	R4	III	○	●	△		◇	PC桁補修工他	15
107	43号橋	形式不明	6.7	不明	-	R2	I	△				◇		
108	細内橋	フレテンション中空床版橋	12.0	不明	-	R4	I			△		◇		
109	中村橋	PC床版橋	20.6	2001	23	R5	I				△	◇		
110	白木野橋	RC-T桁橋	7.5	不明	-	R4	II			△		◇		
111	細内川橋	単純RC-T桁橋	11.6	不明	-	R3	I		△			◇		
112	越中畠橋	単純RC-T桁橋+単純PCフレテン床版橋	7.5	不明	-	R2	I	△				◇		
113	咲橋	カルバート	2.5	不明	-	R3	I		△			◇		
114	早川橋	RC床版橋	5.0	不明	-	R4	II			△		◇		
115	エボタ橋	ボックスカルバート	3.3	不明	-	R3	II		△			◇		
116	京松橋	単純RCT桁+単純RC床版橋	5.9	不明	-	R2	I	△				◇		
117	野々宿橋	RC-T桁橋	7.3	不明	-	R4	II			△		◇		
118	桜橋	単純PCフレテン床版橋	12.0	不明	-	R2	I	△				◇		
119	湯川川橋	RC-T桁橋	12.3	不明	-	R4	II			△		◇		
120	小堀橋	単純2径間RCT桁橋	16.3	1962	62	R2	I	△	○	●		◇	橋面防水工 断面修復工他	11
121	滑床橋	フレテンション中空床版橋	18.0	1983	41	R4	II			△		◇		
122	鷺之巣橋	単純鋼アーチ橋	57.0	1963	61	R2	I	△				◇		
123	三工場橋	鋼溶接 I桁	25.7	1962	62	R4	I			△		◇		
124	岩滑橋	PC-I桁橋	6.5	不明	-	R4	I			△		◇		
125	緑橋	スラブ橋桁・中実	12.8	1961	63	R3	III	●	●△			◇	緑端拡幅工 橋面防水工他	150
126	栗師橋	単純鋼 I桁橋	27.9	1962	62	R2	I	△				◇		
127	本内橋	単純2径間 I桁橋	61.1	1963	61	R2	I	△				◇		
128	小荒沢橋	RC床版橋	8.0	不明	-	R4	II			△		◇		
129	仙の沢橋	PC-I桁橋	10.4	1978	46	R4	III			△		◇	R6補修	
130	小花橋	単純鋼板橋(耐候性鋼)	26.5	1982	42	R4	II			△		◇		
131	鎧山橋	7径間連結PCホスデンT桁橋	229.0	2005	19	R2	I	△				◇		
132	志賀来橋	鋼桁橋	30.0	1997	27	R5	I				△	◇		
133	七ツ釜橋	スラブ橋桁・中実	11.7	不明	-	R3	II		△			◇		
134	大瀬沢橋	ボックスカルバート	5.0	不明	-	R5	I				△	◇		
135	鍛沢1号橋	カルバート	2.8	不明	-	R3	I		△			◇		
136	長瀬野6号橋	床版橋・中実	3.1	1978	46	R3	III	●	△			◇	BOX更新	23
137	桐沢2号橋	RC床版橋	10.7	1987	37	R5	I				△	◇		
138	湯の沢橋	スラブ橋桁・中実	18.4	1985	39	R3	I		△			◇		
139	小杉沢橋	スラブ橋桁・中実	17.2	1987	37	R3	I		△			◇		
140	鶯宿線1号橋	ボックスカルバート	5.9	不明	-	R5	I				△	◇		
141	鶯宿線2号橋	ボックスカルバート	2.2	不明	-	R5	I				△	◇		
142	白木野橋	不明	62.0	1995	29	R2	I	△				◇		
143	川尻橋	不明	40.1	1995	29	R2	I	△				◇		
144	大石橋	不明	68.1	1996	28	R2	I	△				◇		
145	七内川1号橋	鋼桁橋	34.0	2015	9	R5	I				△	◇		
147	猿橋2号橋	PC床版橋	5.0	1962	62	R5	I				△	◇		
148	太田2号橋	PC床版橋	3.6	不明	-	R5	II				△	◇		
149	開宝橋	RC-T桁橋	42.0	1960	64	R5	III				■		撤去工事	25
146	ほっとかけはし	単純非合成T桁橋 (ティッフレー)	32.5	不明	-	R3	II		△			◇	横断歩道橋	
事業費合計(百万円)(税抜き)								169	81	302	236	340		

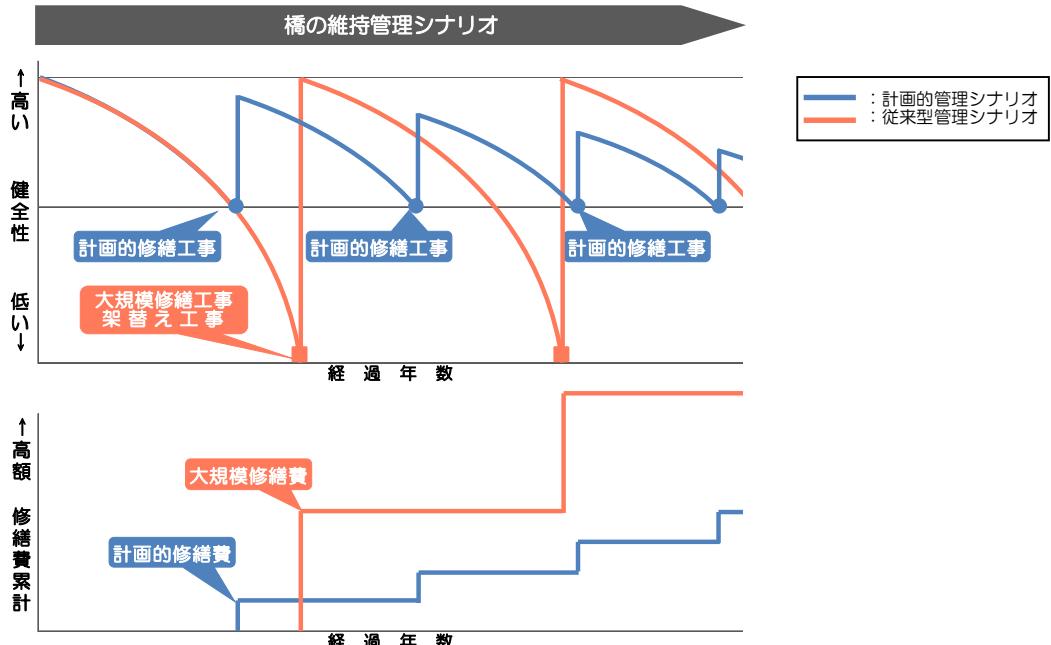
【凡例】

- △ : 点検
- : 補修設計
- : 補修工事
- ◇ : 計画見直し
- : 撤去工事

6. 橋梁長寿命化修繕計画による効果

【安全性の確保と橋の長寿命化】

- 橋の損傷が深刻化してから修繕や架替え更新を行う従来型管理の橋は、大きな損傷が発見されるまで放置されるため、危険な状態が続きます。
- 計画的な修繕を行う管理に転換することで、**安全性の確保と橋の長寿命化**が図れます。

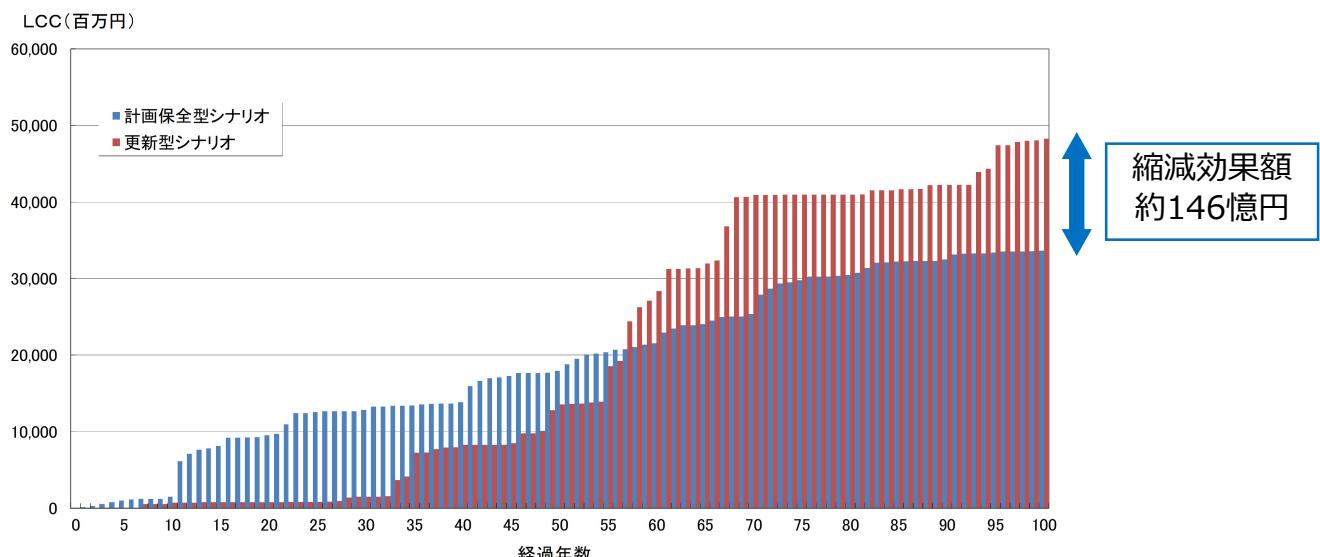


【予算の平準化】

- 対症療法的な従来型管理では大規模な修繕・架替え更新を行うため、単年度の事業費が大きくなります。計画的管理により修繕を行うことで、**予算の平準化**が図れます。

【ライフサイクルコストの縮減】

- 今後、100年間を対象としたライフサイクルコストの試算では、計画的管理の累計額と従来型管理の累計額の差は約146億円になり、非常に大きな**縮減効果**が見込めます。



7. 新技術の活用の検討

橋梁のより良い長寿命化を図るため、コスト縮減や維持管理の高度化、効率化の観点から「橋梁定期点検」および「補修工事」について、新技術の活用が見込まれる橋梁で、新技術の導入検討を行っていきます。

新技術については、国土交通省の「性能力タログ」や「新技術情報提供システム（NETIS）」で公表されている技術を参考に、従来点検と新技術を活用した場合のコスト比較をして導入検討を行います。下記に参考とする新技術を記載します。

【参考技術】

参照先	技術番号	技術名
国土交通省「性能力タログ」	BR010009-V0222	全方向衝突回避センサーを有する小型ドローン技術
	BR010018-V0322	橋梁点検支援ロボット+橋梁調書作成支援システム（ひびわれ）
	BR020006-V0322	橋梁点検支援ロボット+橋梁調書作成支援システム（うき）
新技術情報提供システム (NETIS)	掲載終了	循環式blast工法
	KT-170015-VR	タフガードクリヤー工法
	KT-190047-A	FF-TCC工法 V2仕様
	CB-130007-VE	ひび割れ補修浸透性エポキシ樹脂塗布工法
	掲載終了	ヒノダクタイルジョイントα
	KK-230060-A	HI-SPECシール工法

8. 集約化・撤去の検討

2029年（令和11年）までの5年間に管理橋梁である2橋について社会情勢や施設の利用状況の変化、施設周辺の道路の整備状況、点検・修繕・更新等に係る中長期的な費用等を考慮しつつ、施設の撤去に伴う迂回路整備や機能縮小などの検討を行い、約148,300千円のコスト縮減を目指します。

また、横断歩道橋についても検討した結果、当該施設はほっとゆだ駅に併設された跨線橋で重要な路線であることから、現時点では集約化・撤去を行うことは困難ですが、今後の法定点検の結果や利用状況等を踏まえ、必要に応じて検討していきます。

9. 短期的な数値目標

● 修繕工事に対する新技術の活用

本計画の対象橋梁のうち、令和7年度から令和16年度までの10年間で4橋の対象橋梁で新技術の活用を目指していきます。塗替え補修・ひび割れ補修で新技術を活用する事で、廃棄物を削減でき、約1千万円のコスト縮減を目指します。（横断歩道橋1橋を含む）

● 点検に対する新技術の活用

2029年（令和11年）までに、管理する橋梁のうち『志賀来大橋』で新技術を活用した点検を進め、従来点検と比較して約114万円のコスト縮減を目指します。

また、そのほかの橋梁についても、最新の技術状況を考慮したうえで、高度化・効率化やコスト縮減を検討し、十分に効果が得られる場合は、積極的に活用していきます。

計画策定担当部署

西和賀町建設水道課 TEL 0197-82-3288